

Vol.86 / 夏季号

令和8年(2026年)7月1日発行
(年3回7・11・2月発行)

 第65回従業員功労表彰受賞者一覧

 令和7年職場における熱中症による
死傷災害の発生状況

 中小企業等経営強化法に関する
証明書発行ガイドライン

製本版最終号(次号からPDF版)

ひ

ま

日農工会報

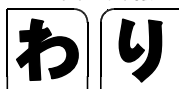
わ

り





日農工会報



令和 8 年（2026 年）7 月 1 日発行

VOL.86／夏季号

CONTENTS

第 65 回従業員功労表彰受賞者一覧

[製造部門]	11 名		1
[研究・開発部門]	8 名		5
[管理・営業部門]	11 名		7

令和 7 年 職場における熱中症による死傷災害の発生状況

令和 8 年 5 月 27 日 厚生労働省労働基準局安全衛生部		13
---------------------------------	-------	----

STOP! 熱中症クールワークキャンペーン		17
-----------------------	-------	----

中小企業等経営強化法に関する証明書発行ガイドライン		19
---------------------------	-------	----

日農工だより		22
--------	-------	----

会員、購読者各位

いつも日農工会報「ひまわり」をご愛読いただき、ありがとうございます。

ところで、昨今出版物は電子配信により利便性を高める例が増えています。

そこで、日農工広報委員会ではひまわりの配布方法について検討し、次号からひまわりは PDF 版のみになります。

ひまわりが完成したら日農工ホームページで公開し、メールで会員の皆様にお知らせする予定です。

経費削減などの事情もあり、皆様にはご理解賜りますようお願いいたします。

今後とも、ひまわりで広報に努めてまいりますので、引き続きご愛読のほどよろしくお願いします。

日農工ひまわり編集部

令和 8 年度

第 65 回従業員功労表彰受賞者

“合理化の促進、技術の改良開発、販売の促進等
企業発展に著しく寄与した方に贈られる”

注：所属・役職名は、選考日(令和 8 年 3 月 11 日)時点
勤続年数は、令和 8 年 5 月 1 日時点

【製造部門】



大 上 靖 彦

(株)アテックス
購買管理部

(勤続年数 41.1 年)

【功績の概要】

入社以来、技術課で「機械検査技能士(1 級)」を取得し、新機種の上準備や品質の確保など社業の発展に多大な貢献をした。中国子会社に駐在し総経理として活躍。現在は購買調達部門の後継者育成に手腕を発揮している。



坂 井 公 志

(株)ササキコーポレーション
生産本部業務部業務課
チーフマネージャー
(勤続年数 32.1 年)

【功績の概要】

入社後、技術部、営業部を経て 1999 年より生産部にて各工程を牽引。2014 年生産部長就任後は、除雪機自動コンベア組立ラインの企画立案から導入・稼働を主導し、さらには電着塗装ラインの立ち上げも推進。生産効率と塗装品質を大幅に向上させ、生産基盤の強化に大きく貢献した。現在は業務部でアフターパーツの供給にも尽力している。



木 村 宏

(株)アテックス
購買管理部

(勤続年数 41.1 年)

【功績の概要】

入社以来、長年プラント施設事業の発展に多大な貢献をした。コミュニケーション能力を生かして、総務部や購買管理部で司令塔としてマルチな才能を発揮。現在は購買管理部門の後継者育成に手腕を発揮している。



富 岡 達 史

三陽機器(株)
油機グループ
グループリーダー
(勤続年数 34.1 年)

【功績の概要】

1992 年に入社。技術部配属となり油圧バルブ・昇降機部品の設計を担当し、フロントローダや気圧リフターの製品化・モデルチェンジに貢献した。2004 年に伊丹事業所(現宝塚事業所)に転籍後は生産管理・外注購買を 22 年間担当。生産管理や資材のコストダウンに貢献した。



浅岡 靖彦

静岡製機(株)
製造部
部長
(勤続年数 38.7 年)

【功績の概要】

2016 年度に品質管理課課長へ就任し、的確な品質保証体系に基づく品質管理活動を行う。工程での品質保証によって、市場での品質不良が低減した。また、その原因究明の姿勢が評価され、営業部営業所からの信頼を築いた。2020 年度には製造課課長へ就任し、様々な工程管理を行った。作業のバラツキを小さくして製品の保証を行う製造工程に要求される「SPQDCME(生産での 7 大任務)」を確実に実行し、特に品質とコスト(製造原価)の面で大きく利益に貢献した。2022 年度に製造部長へ就任し、全社に先駆けて、製造部全体で DX を考慮した工程管理ソフトウェアを導入。管理手法を変更して間接コストを低減させた。また、デマンド管理手法を変更することにより、原価低減にも寄与した。



池澤 和也

(株)タイガーカワシマ
製造部
管理課
(勤続年数 47.1 年)

【功績の概要】

入社後、製造部組立課に所属、各製品の組立現場に 25 年従事し、ムダ取り活動や品質向上に貢献。その後、製造部管理課の資材調達を担当者として 22 年従事し適正な品質とコストで原材料を調達して会社に貢献した。



宗圓 文男

(株)太陽
生産本部 物流部
物流課 管理係 係長
(勤続年数 30.10 年)

【功績の概要】

入社以来、アグリ開発部門および製品課での経験を経て物流課に配属され、一貫して業務に取り組んできた。とりわけ物流課においては、出荷精度の向上と作業効率化に大きく貢献し、誤出荷率の大幅な低減や現場作業時間の短縮、さらにはコスト削減を実現した。長年にわたり誠実に業務へ向き合ってきた姿勢は、部門全体の品質向上につながり、会社全体の信頼性向上にも大きく寄与している。



武林 修

(株)太陽
生産本部 物流部
中部物流センター課長
(勤続年数 34.1 年)

【功績の概要】

入社以来、物流課で経験を重ね、現在は中部物流センター長として拠点運営を統括している。特に中部物流センターでは、庫内作業の効率化や在庫の最適化に主体的に取り組み、安定した運営体制の確立に大きく貢献した。これらの取り組みにより、作業効率の向上とコスト削減を実現し、会社全体の利益率向上にも寄与している。課長の的確な判断力と現場を重視した姿勢は、センターの安定稼働を支える大きな基盤となっており、会社の物流体制強化に顕著な成果をもたらしている。



(株)アテックス 大上靖彦さん



静岡製機(株) 浅岡靖彦さん



(株)アテックス 木村宏さん



(株)タイガーカワシマ 池澤和也さん



(株)ササキコーポレーション 坂井公志さん



(株)太陽 宗圓文男さん



三陽機器(株) 富岡達史さん



(株)太陽 武林修さん



松 本 広 志

(株)タカキタ

製造本部 本社工場

組立課 課長

(勤続年数 32.1 年)

【功績の概要】

入社以来、製造本部本社工場に勤務し、2015 年製造本部本社工場機械課専任課長、2017 年機械課から組立課へ異動となり、組立課課長に就任し現在に至る。農業機械の製造など一貫して当社のものづくりにたずさわり、社業の発展、部下の指導育成に貢献した。



(株)タカキタ 松本広志さん



関 口 修 嗣

本田技研工業(株)

二輪・PP 事業本部

二輪・PP 開發生産統括部

生産企画部 PP 生産企画課

Assistant Chief Engineer

(勤続年数 39.1 年)

【功績の概要】

1988 年より組立設備設計や移管対応に従事し、乗用トラクタ TM やパワープロダクツ製品の生産性向上に貢献。2009 年以降は海外拠点で事業計画や新機種量産を主導し、刈払機やロボットモアの製品化に大きく寄与した。



本田技研工業(株) 関口修嗣さん



五十嵐 由美子

(株)山本製作所

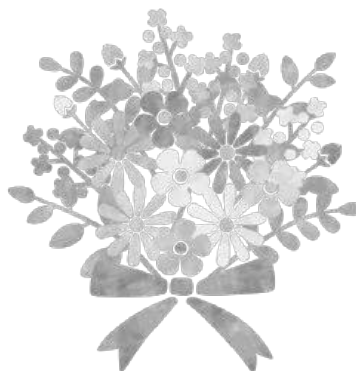
製造部

組立第一グループ

(勤続年数 40.1 年)

【功績の概要】

入社以来、製造組立グループで穀物用乾燥機の生産をしており、正確な作業と決められたルールを順守することで、乾燥機の安定供給に貢献している。また、日ごろから気になっていることは付度なく意見を出す姿、てきぱきと作業をしている姿は若手社員の模範となっている。



[研究・開発部門]



東 秀 哉

(株)IHI アグリテック

開発部

部長

(勤続年数 31.1 年)

【功績の概要】

1995 年スター農機(株)に入社し、千歳本社開発部にて農業機械の開発設計業務に従事。2016 年上海世達爾現代農機有限公司技術部部長として出向、2020 年開発部担当部長、2023 年品質保証部部長、2025 年開発部部長、現在に至る。たい肥散布機などの開発に始まり、中国合弁(上海)会社では牧草梱包機械なども中国人設計者に指導をすることで技術者として経験を積み上げた。さらに芝刈り機械分野の品質保証もとりまとめ、エンジニアとしての幅を広げ全社の技術力向上に貢献した。

現場不具合の未然防止に寄与。トラクタメーカーの動向にも常にアンテナを張り、装着トラブル抑制と信頼向上に貢献している。



(株)IHI アグリテック 東秀哉さん



佐久間 貴 聖

金子農機(株)

取締役

技術部 部長

(勤続年数 30.1 年)

【功績の概要】

長年にわたり新商品開発や品質向上、コスト削減に取り組み、組織の競争力向上に大きく貢献した。8 件の特許取得を含む成果は、事業発展に確かな効果をもたらしている。



金子農機(株) 佐久間貴聖さん



河 本 拓 也

小橋工業(株)

開発本部 設計 1 課

設計 1 係 スペシャリスト

(勤続年数 25.1 年)

【功績の概要】

機種を問わずすべての作業機開発におけるマッチング業務に従事。仕様・適合条件を徹底的に検証し、作業機の性能発揮に重要な役割を果たすとともに、



小橋工業(株) 河本拓也さん



中谷 公紀

小橋工業(株)

開発本部 執行役員

本部長

(勤続年数 26.1 年)

【功績の概要】

畦塗機および大型アースロータリの開発に従事。高性能化により市場から高い評価を獲得し販売拡大にも寄与。関連技術で発明表彰も受賞している。現在は開発本部執行役員として技術と組織を牽引し、技術力向上と事業拡大に大きく貢献している。



笹岡 雅行

本田技研工業(株)

二輪・PP 事業本部

二輪・PP 開発生産統括部

生産企画部

Expert Engineer

(勤続年数 39.1 年)

【功績の概要】

長年にわたり耕うん機・芝刈機・ロボットモアなど多様な製品開発を主導し、国内外で量産化を実現。海外拠点を含めた設計・品質責任者としてグローバル品質向上にも大きく貢献した。



吉良川 哲朗

(株)太陽

営業本部 開発部

部長

(勤続年数 31.1 年)

【功績の概要】

入社以来、長きに亘って耕うん爪の研究開発に携わってきた。現在は開発部の管理総括責任者として指揮にあたり、その信頼性は極めて高い。加えて、社内の改善提案活動の責任者として活性化に取り組んでおり、多大な貢献をしている。



松 寄 一 公

(株)丸山製作所

技術本部 技術部

技術部長

(勤続年数 35.1 年)

【功績の概要】

入社以来、設計部門に所属し、製品の設計開発業務に従事してきた。特に大型機械事業部では、主要製品の新規開発プロジェクトに継続的に参加し、設計品質の向上に大きく貢献した。また、若手社員への技術指導にも積極的に取り組み、組織全体の技術力向上にも多大な成果を上げている。



胡桃沢 隆

(株)デリカ

開発技術部

技術 PC 次長

(勤続年数 6.5 年)

【功績の概要】

長野県の要請を受けレタス収穫機の開発に取り組み、2024 年国内で初めて上市を達成した。現在は、収穫課題における栽培適正化に協力し、新たな取組みの栽培コスト削減にも参画予定。この挑戦は当社理念「恕新誠創」を体現するとともに、農業省人化に貢献している。



小橋工業(株) 中谷公紀さん



(株)太陽 吉良川哲朗さん



本田技研工業(株) 笹岡雅行さん



(株)デリカ 胡桃沢隆さん



(株)丸山製作所 松壽一公さん

[管理・営業部門]



柿 本 法 一

アグリテクノサーチ(株)
調達部
ミドルマネージャー
(勤続年数 44.1 年)

【功績の概要】

当社の前身の多木農工具(株)に 1982 年 4 月入社以来、組立生産および購買・調達業務に誠実に従事。確かな経験と知識で安定供給とコスト削減に貢献し、職場の模範となっている。また、日頃から模範となる姿勢で業務に取り組み、職場の信頼も厚く、後輩社員の指導にも熱心で、職場環境の向上にも寄与している。永年にわたり当社の発展に顕著な功績を挙げており、永年勤続優良従業員として表彰に値する人物である。



鴨 谷 篤

有光工業(株)
西日本ブロック
大阪第 1 ブロック
(勤続年数 26.1 年)

【功績の概要】

2000 年 3 月入社、同年 11 月東海営業所に配属、2010 年 10 月九州営業所へ所属、2016 年同営業所係長昇進、2020 年大阪営業所へ所属、同年課長へ昇進、現在に至る。その間、常に旺盛な行動力を持って農業用防除機の販売、推進、新規代理店の開拓にあたり、社業発展に貢献した功績は極めて大きい。仕事に対する熱意は同僚の模範であり、温厚な人柄 旺盛な勤務意欲は表彰に値する。



山 梶 直 樹

(株)神崎高級工機製作所

総務部

部長

(勤続年数 44.1 年)

【功績の概要】

入社以来 40 年、小型トラクタの設計や試験に従事した後、国内外の農業機械や乗用芝刈機、除雪機用の油圧製品・トランスミッション等の営業技術として現地ユーザーの声を聞き、安全性や操作性、サービス性の向上に寄与した。



加 藤 克

キャニコム

ブランディング事業部

国内ブランディング部

東日本部長

(勤続年数 22.7 年)

【功績の概要】

2003 年の入社以来、お客様のボヤキや潜在的な課題を的確に汲み取り、「草刈機まさお」の販売や改良・新商品開発に継続的に貢献してきた。また、新市場の開拓業務においても、顕著な成果を上げており、2022 年の東日本営業部長就任後は販売戦略を主導し、ブランド力向上と業績拡大に寄与している。



弓 桁 正 之

静岡製機(株)

農機営業部

施設設計課 課長

(勤続年数 36.0 年)

【功績の概要】

1990 年入社から 4 年間新規事業の立ち上げに関わり、その後その技量を活かし技術部で新商品開発に従事。2009 年から特機関連の業務に携わり現在は施設設計課をまとめる長として、なくてはならない存在となっている。



アグリテクノサーチ(株) 柿本法一さん



有光工業(株) 鴨谷篤さん



(株)神崎高級工機製作所 山梶直樹さん



キャニコム 加藤克さん



静岡製機(株) 弓桁正之さん



中 村 直 樹

ハスクバーナ・ゼノア(株)
営業本部
九州支店
(勤続年数 22.5 年)

【功績の概要】

2003 年入社以来、国内営業部門に従事。九州全域を中心に担当、持ち前の積極性と行動力を発揮し、新規開拓において数多くの成果を上げ当社の営業基盤拡大に大きく貢献。また、後進指導にも力を注ぎ、営業力の底上げにも尽力している。



吉 松 政 和

ハスクバーナ・ゼノア(株)
営業本部
九州支店
(勤続年数 41.5 年)

【功績の概要】

入社以来 40 年以上にわたり一貫して国内営業に従事し、九州全域、関東・甲信越を担当。常にお客様との信頼関係を大切にし、丁寧で誠実な対応を積み重ねてきた姿勢は、多くの販売店様から厚い信頼を得ており当社の売上拡大に大きく貢献している。



中 島 茂 弘

本田技研工業(株)
二輪・PP 事業本部
PP 事業統括部
事業企画部戦略企画課
主事
(勤続年数 40.1 年)

【功績の概要】

広報・ブランド業務にて長年培った知識と技能を最大限発揮し、社内外に当社パワープロダクツを広く訴求することに寄与した。その成果は、事業の発展とプレゼンス向上に大きく貢献したものと評価する。



熊 谷 秀 之

松山(株)
営業部 九州営業所
所長
(勤続年数 25.1 年)

【功績の概要】

入社以来一貫して営業部門に従事。この間、市場開拓と営業部の業務基盤の確立を進めてきた。2019 年からは九州営業所の所長に就任し、広範囲かつ重要な取引先の多いエリアで着実に実績を拡大させながらシェアの確立に尽力している。何事にも真摯に向き合い、社内外の担当者との信頼関係も厚く、営業部全体の業績向上ならびに顧客の信用・信頼の向上に寄与している。



渡 辺 哲 嘉

松山(株)
営業部 長野営業所
所長
(勤続年数 29.1 年)

【功績の概要】

入社以来一貫して営業部門に従事。この間、市場開拓と営業基盤の確立を進めてきた。岡山営業所長、物流センター長などを歴任し、現在は長野営業所長として、広範囲のエリアで着実に実績を拡大させな

がらシェアの確立に尽力している。何事にも真摯に向き合い、社内外の担当者との信頼関係も厚く、営業部全体の業績向上ならびに顧客の信用・信頼の向上に寄与している。



松下 賢二

やまびこジャパン(株)

農林東日本営業部

群馬営業所 主幹

(勤続年数 36.1 年)

【功績の概要】

入社以来、30 年以上に渡り営業最前線で活躍し、埼群営業所、茨城営業所では拠点店長を務めあげ、営業プロセス改善や後進育成にも尽力し、組織全体の営業力向上に大きく寄与している。



本田技研工業(株) 中島茂弘さん



松山(株) 熊谷秀之さん



ハスクバーナ・ゼノア(株) 中村直樹さん



松山(株) 渡辺哲嘉さん



ハスクバーナ・ゼノア(株) 吉松政和さん



やまびこジャパン(株) 松下 賢二さん



受賞者代表謝辞：(株)タイガーカワシマ 池澤和也さん



(株)神崎高級工機製作所 山梶直樹さん



アグリテクノサーチ(株) 柿本法一さん



小橋工業(株) 中谷公紀さん



(株)アテックス 大上靖彦さん



(株)ササキコーポレーション 坂井公志さん



(株)アテックス 木村宏さん



三陽機器(株) 富岡達史さん



静岡製機(株) 浅岡靖彦さん、弓桁正之さん



ハスクバーナ・ゼノア(株) 吉松政和さん、中村直樹さん



(株)太陽 吉良川哲朗さん、武林修さん、
宗園文男さん



本田技研工業(株) 笹岡雅行さん、
関口修嗣さん、中島茂弘さん



(株)タカキタ 松本広志さん



松山(株) 渡辺哲嘉さん、熊谷秀之さん



(株)デリカ 胡桃沢隆さん



やまびこジャパン(株) 松下賢二さん

2025 年(令和 7 年)職場における熱中症による死傷災害の発生状況

令和 8 年 5 月 27 日 厚生労働省 労働基準局安全衛生部

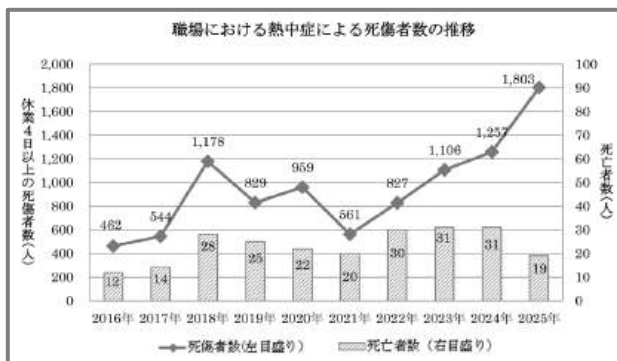
出典：労働者死傷病報告

1. 職場における熱中症による死傷者数の状況 (2016～2025 年)

職場での熱中症による死亡者及び休業 4 日以上の業務上疾病者の数（以下合わせて「死傷者数」という。）は、2025 年に 1,803 人と、2024 年に比べて約 43%増加し、死傷者数について統計を取り始めた 2005 年以降、最多となった。うち、死亡者数は 19 人と、2024 年に比べ約 39%減少した。

気象庁によると、2025 年夏（6 月～8 月）の平均気温偏差（基準値（1991～2020 年の 30 年平均値）からの偏差）は、+2.36℃と、統計開始以来最高を記録しており、死傷者数の増加の一因となったと推測される。

また、2025 年に労働安全衛生規則の改正により、熱中症のおそれのある作業を行うときには、事業者には報告体制の整備、手順の作成等の措置を講じることが義務付けられたところであり、これにより、事業場における熱中症の重篤化防止対策が一段と進み、当該改正が主な目的としていた熱中症の重篤化による死亡災害の防止が一定程度図られたと考えられる。



※各年の確定値は、1 月 1 日～12 月 31 日までの間に発生した熱中症に係る労働災害で、翌年概ね 4 月 7 日までに労働者死傷病報告が提出されたものを集計したもの。

2. 業種別発生状況（2021～2025 年）

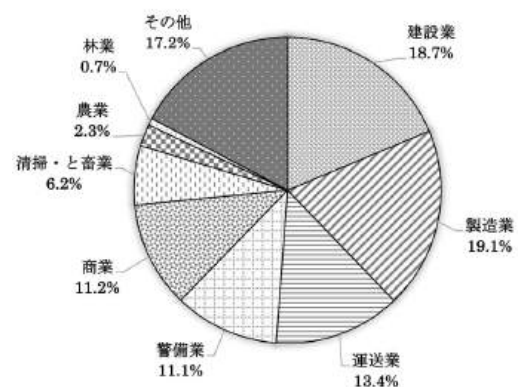
2025 年の死傷者数 1,803 人について、業種別でみると、製造業が 365 人、建設業が 292 人の順で多くなっている。死亡者数 19 人について、業種別でみると、建設業が 5 人と最も多く、次いで、警備業が 3 人となっている。

また、2021 年以降の 5 年間に発生した熱中症の死傷者数 5,554 人について、業種別でみると、製造業 1,063 人、建設業 1,038 人の順で多くなっており、いずれの年もこの 2 業種で約 4 割を占めている。同時期の死亡者数 131 人について、業種別でみると、建設業 52 人、警備業 18 人の順で多く発生しており、年度により割合にばらつきがあるが、この 2 業種で約 4 割から 7 割程度を占めている。

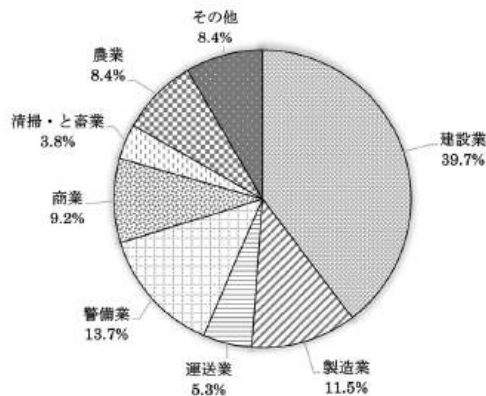
熱中症による死傷者数の業種別の状況(2021～2025年) (人)									
業種	建設業	製造業	運送業	警備業	商業	清掃・と畜業	農業	林業	その他
2021年	130 (11)	87 (2)	61 (1)	68 (1)	63 (3)	31 (0)	14 (2)	7 (0)	100 (0)
2022年	179 (14)	145 (2)	129 (1)	91 (6)	82 (2)	58 (2)	21 (2)	6 (0)	116 (1)
2023年	209 (12)	231 (4)	146 (1)	114 (6)	114 (3)	61 (0)	27 (4)	9 (0)	184 (1)
2024年	228 (10)	235 (5)	186 (3)	142 (2)	115 (2)	76 (2)	32 (1)	10 (0)	232 (6)
2025年	292 (5)	365 (2)	220 (1)	199 (3)	237 (2)	121 (1)	34 (2)	9 (0)	326 (3)
計	1,038 (52)	1,063 (15)	742 (7)	614 (18)	623 (12)	347 (5)	128 (11)	41 (0)	958 (11)

※（ ）内の数値は死亡者数で内数である。

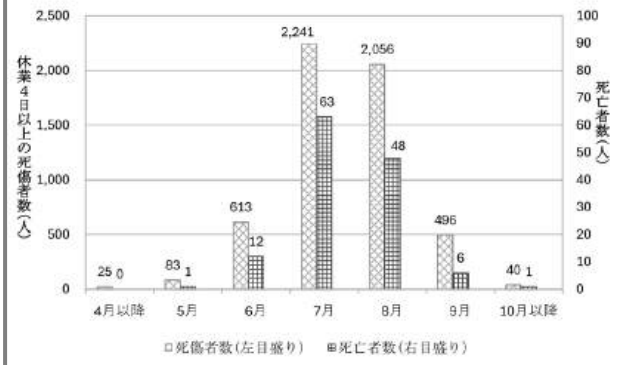
熱中症による業種別死傷者数の割合（2021～2025年計）



熱中症による業種別死者数の割合（2021～2025年計）



熱中症による月別死傷者数（2021～2025年計）



3. 月・時間帯別発生状況（2021～2025年）

(1) 月別発生状況

2025年の死傷者数1,803人について、月別で見ると、約72%が7月又は8月の2か月間に集中している。

また、2021年以降の5年間に発生した熱中症の死傷者数5,554人について、月別で見ると、約77%が7月又は8月の2か月間に集中している。死者数についても、6月後半に急激に気温が上昇した2022年は6月に10人の方が亡くなっているが、これを除けば、いずれの年も7月又は8月に集中し、死者の約85%がこの2か月に集中している。多くの年で、6月～7月の暑くなり始めた時期に死傷者数が上昇し、その後に横ばいになり、9月に急激に減少する傾向が見て取れる。

熱中症による死傷者数の月別の状況(2021～2025年) (人)

	4月以前	5月	6月	7月	8月	9月	10月以降	計
2021年	4 (0)	7 (1)	41 (0)	213 (7)	269 (12)	20 (0)	7 (0)	561 (20)
2022年	2 (0)	14 (0)	184 (10)	291 (9)	280 (10)	46 (1)	10 (0)	827 (30)
2023年	5 (0)	21 (0)	63 (1)	431 (18)	493 (10)	86 (2)	7 (0)	1,106 (31)
2024年	3 (0)	18 (0)	57 (0)	588 (17)	431 (13)	156 (0)	4 (1)	1,257 (31)
2025年	11 (0)	23 (0)	268 (1)	718 (12)	583 (3)	188 (3)	12 (0)	1,803 (19)
計	25 (0)	83 (1)	613 (12)	2,241 (63)	2,056 (48)	496 (6)	40 (1)	5,554 (131)

※ 4月以前は1月から4月まで、10月以降は10月から12月までを指す。

※ () 内の数値は死者数であり、死傷者数の内数である。

(2) 時間帯別発生状況

2025年の死傷者数1,803人について、時間帯別で見ると、午前中や午後3時前後の被災者数が多くなっていることが窺えるが、日中のいずれの時間帯でも発生している。このうち死亡災害については、多くが午後の時間帯に発生している。

また、2021年以降の5年間に発生した熱中症の死傷者数及び死者数について、時間帯別で見ると、死傷者数、死者数ともに2025年と同様の傾向となっている。

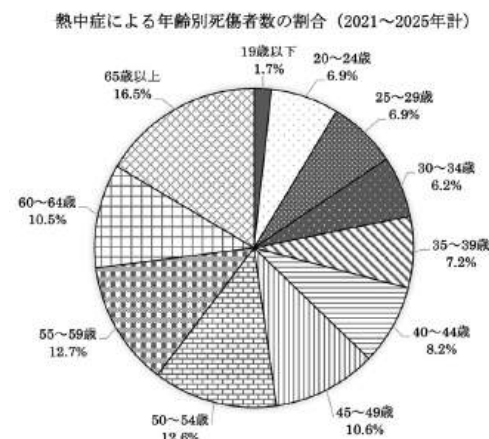
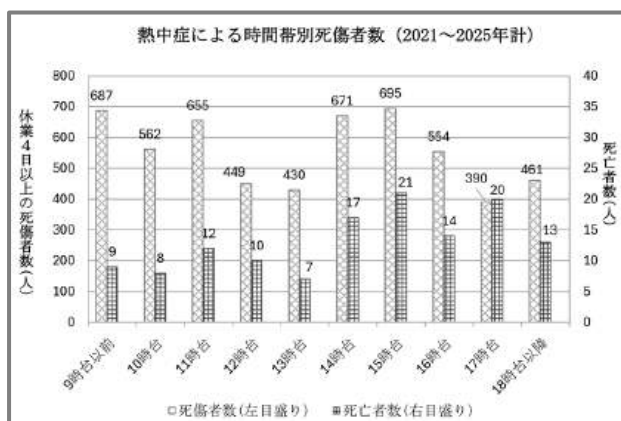
なお、気温が下がった17時台や18時台以降に死亡に至るケースが少なからずみられるが、これらには、日中には重篤な症状はみられなかったにもかかわらず、作業終了後や帰宅後に体調が悪化した事案が含まれている。

熱中症による死傷者数の時間帯別の状況（2021～2025年） (人)

	9時台以前	10時台	11時台	12時台	13時台	14時台	15時台	16時台	17時台	18時台以降	計
2021年	48 (0)	56 (1)	74 (3)	53 (4)	47 (3)	63 (3)	73 (0)	61 (3)	38 (3)	48 (0)	561 (20)
2022年	100 (1)	78 (3)	87 (1)	53 (3)	74 (2)	115 (3)	106 (6)	92 (2)	55 (5)	67 (4)	827 (30)
2023年	143 (4)	118 (2)	155 (6)	104 (1)	72 (0)	124 (5)	123 (2)	105 (1)	76 (8)	86 (2)	1,106 (31)
2024年	167 (3)	126 (2)	137 (2)	93 (2)	92 (1)	143 (3)	160 (7)	125 (5)	99 (3)	115 (3)	1,257 (31)
2025年	229 (1)	184 (0)	202 (0)	146 (0)	145 (1)	226 (3)	233 (6)	171 (3)	122 (1)	145 (4)	1,803 (19)
計	687 (9)	562 (8)	655 (12)	449 (10)	430 (7)	671 (17)	695 (21)	554 (14)	390 (20)	461 (13)	5,554 (131)

※ 9時台以前は0時から9時台まで、18時台以降は18時から23時台までを指す。

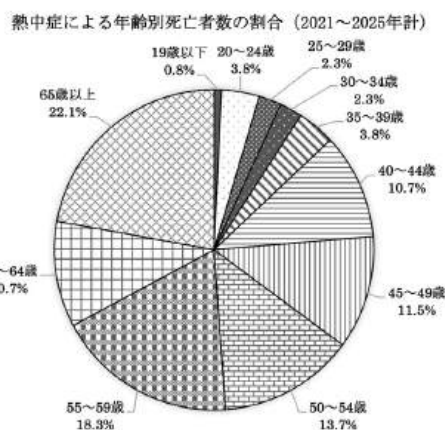
※ () 内の数値は死者数であり、死傷者数の内数である。



4. 年齢別発生状況 (2021～2025 年)

2025 年の死傷者数 1,803 人について、年齢別でみると、死傷者は、いずれの年齢層でもみられるが、50 歳代以上で全体の約 52%を占めている。そのうち死亡者は、40 歳代以上に集中しており、50 歳代以上で全体の約 84%を占めている。

また、2021 年以降の 5 年間に発生した熱中症の死傷者数 5,554 人について、年齢別でみると、2025 年と同様の傾向がみられ、50 歳代以上で全体の約 52%を占めている。死亡者数 131 人について、年齢別でみると、50 歳代以上で全体の約 65%を占めている。一般に高齢者は、暑さや水分不足に対する感覚機能が低下しており暑さに対する身体の調節機能も低下するなど、加齢による身体機能の低下等の影響により熱中症を発症するリスクが高いことから、死亡災害に至る割合が高くなっていることが考えられる。



5. 2025 年の熱中症による死亡災害の事例

【死亡災害全体の概要】

- ・総数は 19 件であった。
- ・被災者を男女別にみると、男性 19 人、女性 0 人であった。
- ・被災場所についてみると、屋内であったのが 4 件、屋外であったのが 15 件であった。
- ・発症時・緊急時の報告体制の整備及び周知（労働安全衛生規則第 612 条の 2 第 1 項に基づく措置）の実施を確認できなかったことが明らかな事例が 2 件あった。

熱中症による死傷者数の年齢別の状況 (2021～2025年) (人)													
	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上	計	
2021年	12 (1)	46 (0)	25 (0)	41 (0)	36 (2)	53 (2)	69 (3)	65 (3)	70 (4)	58 (1)	86 (4)	561 (20)	
2022年	10 (0)	39 (2)	72 (1)	62 (3)	69 (1)	72 (1)	103 (5)	93 (3)	94 (4)	87 (3)	126 (7)	827 (30)	
2023年	20 (0)	80 (2)	71 (2)	48 (0)	88 (1)	90 (6)	122 (1)	136 (4)	133 (4)	120 (4)	198 (7)	1,106 (31)	
2024年	17 (0)	68 (1)	89 (0)	70 (0)	88 (1)	105 (4)	113 (4)	164 (3)	177 (8)	139 (3)	227 (7)	1,257 (31)	
2025年	38 (0)	151 (0)	129 (0)	123 (0)	121 (0)	133 (1)	179 (2)	241 (5)	229 (4)	181 (3)	278 (4)	1,803 (19)	
計	97 (1)	384 (5)	386 (3)	344 (3)	402 (5)	453 (14)	586 (15)	699 (18)	703 (24)	585 (14)	915 (29)	5,554 (131)	

※ () 内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である。

- ・発症時・緊急時の措置手順の作成及び周知（労働安全衛生規則第612条の2第2項に基づく措置）の実施を確認できなかったことが明らかな事例が3件あった。
- ・熱中症予防のための労働衛生教育の実施を確認できなかった事例が9件あった。
- ・糖尿病、高血圧症など熱中症の発症に影響を及ぼすおそれのある疾病や所見を有している事が明らかな事例は9件あった。



職場における熱中症防止のためのガイドライン 概要	
第1 目的等 第2 熱中症リスクの評価 第3 熱中症リスクに応じた措置	
1 有害性の要因の特定 2 湿球黒球温度の値（WBGT値）の把握	3 熱中症リスクの評価・検討 4 健康管理 5 労働衛生教育 6 異常時の措置 7 その他
● 職場において熱中症リスクとなり得る暑熱に関する有害性を特定 ・有害性としては、①高温・多湿な作業環境、②連続作業、③通気性や透湿性の低い衣服・保護具、④身体作業負荷の大きい作業 が挙げられる。	● 熱中症リスクの評価 ・WBGT値に、身体作業強度等の補正を行い、熱中症リスクを見積る。 ・WBGT基準値を超える場合はWBGT値の低減等の熱中症予防対策を実施。 ● 熱中症リスクの低減のための措置の検討 ・作業場所のWBGT値の低減を検討（作業環境管理）。 ・事業場の実情を踏まえて作業管理。 ・高齢者、熱中症発症リスクに影響を与える疾病や障がいを持つ作業従事者に対しては、作業時間の短縮等を検討。
● JIS B 7922等に適合したWBGT指数計で実測	
1 労働衛生管理体制の確立等 2 作業環境管理 3 作業管理	
● 労働衛生管理体制の確立等 ・衛生委員会等を活用し、労働者の理解と協力を得つつ労使で話し合い、その内容を労働者に対して周知することが重要。 ● 各種管理者等の選任と役割 ・衛生管理者等を中心に熱中症予防対策を検討。 ● 作業手順・作業計画の策定 ● 報告体制の整備及び手順等の作成並びに周知	
● WBGT値の低減 ・発熱体との間に遮へい物の設置、簡易な風扇等の設置等。 ● 休憩場所の整備等 ・休憩の設備はできる限り作業従事者が速やかに利用できる場所に設置することが望ましい。	
● 作業時間の短縮等 ・作業の停止時間や休憩時間の確保。 ● 暑熱順化 ・計画的に暑熱順化期間を設ける。 ● フレックリング ・作業開始前にあらかじめ深部体温を下げる、作業中の体温上昇を抑制。 ● 水分及び塩分の摂取 ・水分及び塩分の作業前後の摂取と作業中の定期的な摂取。 ● 服装による身体冷却 ・透湿性・通気性の良い服や身体を冷却する機能を持つ服の着用。 ● 作業中の監視 ・高温多湿作業場所での作業中は監視を厳密に行い、健康状態を確認。 ● 薬種・作業服の対応例	
図表等 ● 身体作業強度等に応じたWBGT基準値 ● 熱中症の症状と分類	● 衣類の組合せによりWBGT値に加えるべき着衣補正值（℃-WBGT） ● 熱中症による健康障害発生時の対応計画 ● 熱中症の発症に影響を及ぼすおそれのある疾病の特徴等

【厚生労働省】STOP！熱中症 クールワークキャンペーン（職場における熱中症予防対策）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000116133.html>

◆ 令和8年実施要綱

<https://www.mhlw.go.jp/content/11303000/001705090.pdf>

◀ 職場における熱中症予防情報 ▶ <https://neccyusho.mhlw.go.jp>

【環境省】熱中症予防情報サイト（WBGT 値）

<https://www.wbgt.env.go.jp/>

【農林水産省】農作業安全対策＞熱中症対策

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/nechu.html



熱中症 クールワーク キャンペーン

職場での熱中症により近年は、
一年間で約30人が亡くなり、
約1,000人以上が4日以上
仕事を休んでいます。



◀ 熱中症対策情報はこちら

—— キャンペーン期間 ——

4月

準備

5月

6月

7月

8月

9月

重点取組

準備期間 4月 にすべきこと

きちんと実施されているかを確認し、
☑チェックしましょう。

労働衛生管理体制の確立



事業場ごとに熱中症予防管理者を選任し
熱中症予防の責任体制を確立

暑さ指数（WBGT）の 把握の準備



JIS規格に適合した暑さ指数計を準備し、点検

作業手順・作業計画の策定



暑さ指数に応じた休憩時間の確保、作業中止
に関する事項を含めた作業手順・作業計画を
策定

設備対策の検討



暑さ指数低減のため簡易な屋根、通風または
冷房設備、散水設備の設置を検討

休憩場所の確保の検討



冷房を備えた休憩場所や
涼しい休憩場所の確保を検討

服装の検討



透湿性と通気性の良い服装を準備、送風や
送水により身体を冷却する機能をもつ服の
着用も検討

教育研修 の実施



管理者、作業者に
対する教育を実施

ガイド・教育動画

e-learning



緊急時の対応の事前確認



緊急時の対応（異常時における連絡体制や
対応手順等）を確認し、関係者に周知

【主唱】厚生労働省、中央労働災害防止協会、建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会、一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会、一般社団法人全国警備業協会 【協賛】公益社団法人日本保安用品協会、一般社団法人日本電気計測器工業会 【後援】農林水産省、国土交通省、環境省、警察庁、消防庁



ひと、くらし、未来のために

厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署

Ministry of Health, Labour and Welfare

キャンペーン期間 5月～9月 にすべきこと



環境省
熱中症予防情報
サイト



STEP
1

暑さ指数の把握と評価

JIS規格に適合した暑さ指数計で暑さ指数を随時把握
地域を代表する一般的な暑さ指数(環境省)を参考とすることも有効

STEP
2

測定した暑さ指数に応じて以下の対策を徹底



暑さ指数の低減

準備期間に検討した設備対策を実施



休憩場所の整備

準備期間に検討した休憩場所を設置



服装

準備期間に検討した服装を着用



作業時間の短縮

作業計画に基づき、暑さ指数に応じた休憩、
作業中止



プレクーリング

作業開始前や休憩時間中に深部体温を下げる



水分・塩分の摂取

水分と塩分を定期的に摂取(水分等を携行
させる等を考慮)



暑熱順化への対応

熱に慣らすため、7日以上かけて作業時間
の調整
※新規入職者や休み明け作業者は別途注意
すること



健康診断結果に基づく対応

次の疾病を持った方には医師等の意見を踏ま
え配慮 ①糖尿病 ②高血圧症 ③心疾患 ④腎
不全 ⑤精神・神経関係の疾患 ⑥広範囲の皮
膚疾患 ⑦感冒 ⑧下痢



日常の健康管理

当日の朝食の未摂取、睡眠不足、前日の多量
の飲酒が熱中症の発症に影響を与えることを
指導し、作業開始前に確認



作業中の作業者の 健康状態の確認

巡視を頻繁に行い声をかける、
「バディ」を組ませる等作業者にお互いの
健康状態を留意するよう指導



異常時の 対応

あらかじめ作成した連絡体制や対応手順等の周知徹底
少しでも本人や周りが異変を感じたら、あらかじめ作成した連絡体制や対応手順等に基づき適切に対応
※必ず一旦作業を離れ、**全身を濡らして送風すること**などにより身体を冷却
※症状が回復しない場合は躊躇なく病院に搬送する(症状に応じて救急隊を要請)

重点取組期間

7月

にすべきこと



- ☐ 暑さ指数の低減効果を再確認し、必要に応じ対策を追加
- ☐ 暑さ指数に応じた作業の中断等を徹底
- ☐ 水分、塩分を積極的に取らせ、その確認を徹底
- ☐ 作業開始前の健康状態の確認を徹底、巡視頻度を増加
- ☐ 熱中症のリスクが高まっていることを含め教育を実施
- ☐ 熱中症のおそれがある者を発見したときは、躊躇することなく救急隊を要請

(R8.2)

中小企業等経営強化法に関する証明書発行ガイドライン

改訂日 令和8年7月1日

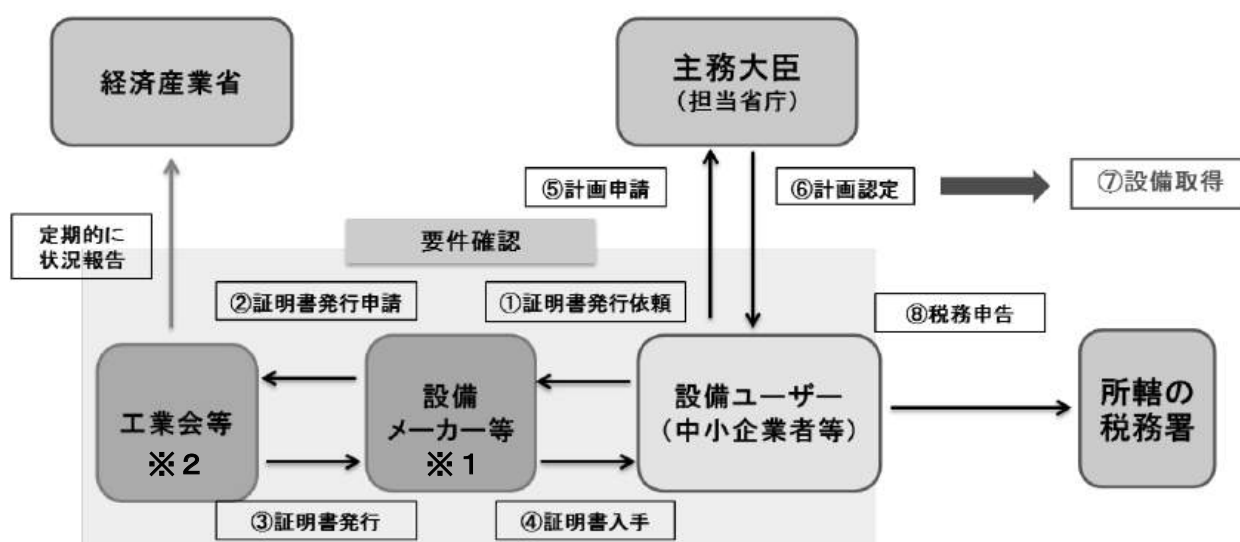
(一社) 日本農業機械工業会

【改定内容】

証明書の発行手数料を改定します。正会員にあっては、令和8年7月1日申請受付分より、その他にあっては、令和8年4月1日申請受付分より適用いたします。詳細は以下の本文をご確認ください。

1. 中小企業等経営強化法に関する証明書

中小企業等経営強化法において、機械・装置等が必要な要件を満たしていることを証明するものです。中小企業等（農業法人、個人農家を含む）が主務大臣の計画認定を受ける際にこの証明書が必要になります。中小企業等は、税務申告の際、計画認定書等を添えて行うことにより、税制優遇等（即時償却又は税額控除10%）を受けられます。



※1 当該設備の性能把握や同一メーカー内の新旧モデルの判別が必要であるため、設備メーカーによる申請が望ましいが、代理店や子会社等で正確な申請が可能な場合は、設備メーカーに代わって申請することを可とする。

※2 設備メーカー自身はその工業会の会員であるか非会員であるかに依らず、設備毎に証明団体として指定されている工業会等へ申請すること。（具体的にどの設備についてどの工業会等に申請すべきかは、経済産業省HP参照。）

1. 設備ユーザーは、当該設備を生産した設備メーカー等に証明書の発行を依頼。
2. 設備メーカー等は、証明書(様式1)及びチェックシート(様式2)を記入の上、工業会等に確認依頼。
手続きに際しては、必要に応じて裏付けとなる資料等を添付。
3. 設備メーカー等は、工業会等から発行された証明書を依頼があった設備ユーザーに転送。
4. 設備ユーザーは工業会等が発行した証明書(写し)を添付して、経営力向上計画の申請書を主務大臣に提出。
5. 設備ユーザーが機械設備等を取得。
6. 認定を受けた経営力向上計画に基づき取得した経営力向上設備等については、税法上の他の要件を満たす場合には、税務申告に際し、納税書類に計画申請書(写し)、計画認定書(写し)、工業会証明書(写し)を添付。

詳しくは、経済産業省中小企業庁 HP をご覧ください。

<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/kyoka/>

2. 申請方法

次の書類を揃えて、当会あてに郵送または、メールにて申請ください。

※メール申請の場合は、以下の【メール申請方法について】をご参照の上、申請してください。

※当会窓口へ直接持参されても受け付けいたしかねます。必ず郵送またはメールでお願いします。

(1) 証明書(様式1) ※申請書を兼ねています。

(2) チェックリスト(様式2)

(3) 非会員の場合は、会社概要(パンフレット等)

様式1、2は、当会HPからダウンロードできます。

URL : <http://www.jfmma.or.jp/certificate.html>

事前に、本制度の要件を満たしていることを十分に確認した上で、申請してください。

(要件)

①販売開始から一定期間以内であること(最新モデルでなくてもよい)

機械・装置：10年、工具：5年、器具・備品：6年、

建物附属設備：14年、ソフトウェア：5年

②当該モデルが一世代前のモデルと比較して、年平均1%以上の生産性向上を達成していること。

なお、比較するのは自社の一世代前のモデルであり、他社製品と比較する必要はありません。

③取得価額が一定金額以上であること

機械・装置：160万円、測定工具及び検査工具：30万円

器具・備品：30万円、建物附属設備：60万円

ソフトウェア：70万円

【メール申請方法について】

① 申請書類は、全てPDF形式にして、ファイルをメール送信ください。

② 証明書発行手数料(正会員以外の方)の請求書(PDF形式)は、証明書と一緒に、メールにてお送りします。

③ 申請用メールアドレス、件名は以下のとおりです。

[申請用メールアドレス] certificate@jfmma.or.jp

[件名] 会社名/証明書申請(●件)

3. 郵送先

〒105-0011

東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館

一般社団法人日本農業機械工業会(証明書申請)

電話：03-3433-0415

FAX：03-3433-1528

4. 証明書発行手数料（当会は消費税の免税事業者です。）

正会員：3,000円／枚（消費税相当額込み）

その他※：7,000円／枚（消費税相当額込み）

※証明書を申請者へ郵送又はメール送信する際、請求書もお送りします。

5. 証明書の発行

証明書が出来しだい、申請者あてに郵送又はメール送信します。

申請資料を当会に郵送する際、必ず切手を貼った返信用封筒を同封してください。

6. 証明書の再発行

発行済みの証明書を紛失、又は内容訂正が必要になった場合には、証明書の再発行をいたします。

(1)再申請の方法

新たに申請書（様式1）のみを郵送してください。チェックリストやエビデンス資料は不要です。

ただし、発行済み証明書の「整理番号」を記載したメモ紙を同封又はメール送信してください。

(2)証明書の受け取り方法

新規申請の場合と同じです。郵送の場合は、返信用封筒を同封してください。

(3)再発行手数料

日農工の正会員以外については、1枚につき7,000円（消費税相当額込み）とします。

徴収方法は、新規申請の場合と同じです。

7. 書類作成上の注意

(1) 必要書類（様式1、様式2）に所定事項を正確に記入してください。

当会が記入する部分（整理番号及び破線枠内）は記入しないでください。

(2) 必要に応じて、本制度の要件を満たしていることを示す根拠資料を要求する場合があります。

8. 「生産性」について

生産性の指標は、以下3つの例示を参考にして、申請者が最適と判断するものを用いてください。

【単位時間あたり生産量】（時間当たり掘削量（ m^3/h ）、時間当たり生成量（個/h）等）

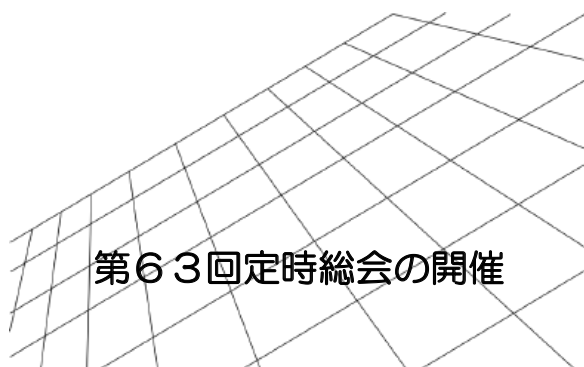
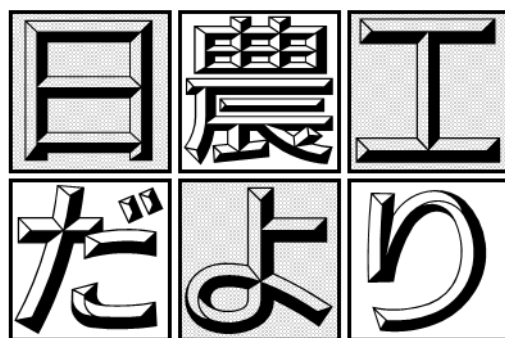
【歩留まり率】（完成品数/投入原料数、良品数/完成品数 等）

【投入コスト削減率】（必要作業時間の短縮率、必要投入原料の削減率 等）

※ 投入コストは当該設備の製作に係る費用（金銭）という意味ではなく、それ以外の時間や原料の量など、当該設備を利用して物等を生成するために必要となる要素を意味しています。

9. 対象期間

平成29年4月1日から令和9年3月31日までの期間。



令和8年6月1日(月)東京都港区芝公園・機械振興会館にて、第63回定時総会を開催いたしました。

①令和7年度貸借対照表及び正味財産増減計算書について、②定款の改正について、③会費賦課基準及び徴収方法の改正について、④理事及び監事の交代について、4件の審議事項はそれぞれ承認されました。

また、総会後に第179回理事会を開催し、以下の通り新役員が承認されました。

会 長	富安司郎(井関農機株式会社)
副会長	鈴木聡司(株式会社クボタ)【新】
〃	所司ケマル(ヤンマーアグリ株)【新】
〃	久保 浩(株式会社やまびこ)
〃	守安利文(三陽機器株式会社)【新】
〃	平野泰孝(マルマス機械株式会社)
理 事	金子常雄(金子農機株式会社)
〃	尾頭正伸(株式会社丸山製作所)
〃	久松朋水(株式会社太陽)

〃	内山剛治(株式会社丸山製作所)
〃	一瀬 新(本田技研工業株)【新】
監 事	山本丈実(株式会社山本製作所)
〃	長谷田肇(アグリテクノサーチ株)【新】
専務理事	石井伸治(日農工)
常務理事	川口 尚(日農工)



第63回定時総会

総会、理事会につづいて、第65回従業員功労表彰式を執り行い、会員企業から推薦を受けた30名(出席29名)の受賞者に、増田前会長より表彰状が授与されました。(1～12ページ参照)



第65回従業員功労表彰式



受賞者をお祝いする増田前会長



受賞者のみなさん



懇親会：富安新会長による乾杯挨拶

◆ 令和8年 春の勲章ご受章のお祝い

静岡製機㈱ 代表取締役社長 鈴木直二郎氏は、農機業界の発展並びに地域経済への貢献などのご功績により、春の叙勲において「旭日双光章」を受章されました。

誠におめでとうございます。心よりご受章をお祝い申し上げます。



富安新会長と静岡製機㈱ 鈴木社長

今後の主なスケジュール

- ◇ 令和8年11月10日（火）
地方大会（福岡市）
グランドハイアット福岡
- ◇ 令和9年1月18日（月）11：30～
新年賀詞交歓会
日本工業倶楽部会館（千代田区丸の内）

《 日農工事務局人事情報 》

令和8年4月1日付で以下の2名が昇格いたしました。

- ◇ 業務部長（旧 業務部次長）松本 礼史
- ◇ 統計課課長代理（旧 係長）野 沙那絵

◇ 令和8年6月1日付で
平澤 研二(ひらざわ・けんじ)氏が
シニアテクニカルマネージャーとして着任いたしました。
日農工の会長会社である井関
農機株式会社からの出向です。
平澤氏のプロフィールをご紹介します。



《 略 歴 》

昭和61年3月	宮崎大学 農学部農業工学科卒業
昭和61年4月	井関農機株式会社入社
昭和62年8月	開発本部 商品企画部 配属
平成4年11月	営業関東支店 技術サービス課
平成15年7月	栃木キセキ販売(株) 出向
平成19年2月	同 取締役 営業副本部長
平成20年7月	営業本部 関西営業部長
平成20年12月	(株)キセキ北海道 出向 営業企画部長
平成21年12月	(株)キセキ関東 出向 執行役員 栃木支社長
平成23年4月	営業本部 アグリインプル事業部 次長
平成24年7月	(株)キセキ関西 出向 取締役
平成25年12月	同 取締役 営業本部長
平成30年6月	営業本部 ISEKI グローバルトレーニング センター長
令和3年9月	兼 つくばみらい総務部長
令和8年6月	(一社)日本農業機械工業会 シニアテクニカルマネージャー

《 自己紹介 》

6月1日付で、日本農業機械工業会に着任いたしました平澤と申します。長年にわたり営業部門に携わり、特に販売会社在籍時には、企業会員各社の皆様より多大なるご支援を賜りました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

井関農機入社当初は、農作業の現場を知らないまま企画部門の仕事に携わっていましたが、やはり現場を知らねば良いアイデアも生まれないと感じていたところ、平成4年に野菜作機械の普及促進業務に携わる機会を得て、そこから営業部門に深く関わるようになりました。当時は野菜作の機械化が注目され始めた頃で、自ら苗を育て、野菜移植機や乗用管理機をトラックに積み、関東甲信越全域を駆け回りました。この時の厳しくも貴重な経験と、そこで出会った方々とのご縁が今の自分を支える原動力になっていると感じています。その後は、販売会社への出向と井関農機営業本部での勤務を重ねながら、農業現場を含む営業部門で多くの経験を積ませていただきました。

11年前に家庭の事情によりやむなく現場を離れることになりましたが、平成27年からは立場変え営業研修の講師として若手の育成に携わってまいりました。研修生に伝えてきたのは、「お客様から信頼される事」の大切さです。また、相手を理解するためには「聴き上手」になることが重要であると伝えてきました。これは私自身にも常に問いかけてきたことであり、これからも大切にしていきたいと思っています。

日本農業は今変革の時代を迎えています。10年もすれば農業生産現場の景色は相当変わってくると予想されます。最大の課題は「労働力の確保」です。働き手の大量離脱により今後20年間で、基幹的農業従事者が30万人(現在の約1/4)まで減少するとも言われています。その様な中で食料の供給体制を確立するためには、規模拡大と大型化による農作業の効率化、さらに自動化や無人化による精密作業、加えて環境問題にも対応しなければなりません。

今後ますます企業会員各社の技術力・開発力が農業の発展に非常に重要になると考えております。これらの課題を解決し、日本農業の発展に一層貢献出来るよう、中核を担う各社様の繁栄に貢献出来るよう、微力ではございますが誠心誠意取り組んで参ります。何卒よろしくお願い申し上げます。



編集後記



会報「ひまわり」の名称の由来

▽ 本号でお知らせしたとおり、「ひまわり」の製本配布は今回が最後になり、次回以降はPDF形式で皆様にお届けいたします。

製本配布を惜しむ声はありましたが、昨今は電子配布が効率的という意見もあり、次号から電子化することになりました。

▽ このような節目であったことから、日農工会報の歴史をたどってみました。

第1号は戦後間もない昭和23年8月に農機具懇話会（当時）が発行した「農機具時報」でした。

その後「農機具情報」、「農業機械情報」と名称をかえて、平成12年（2000年）に現在の「ひまわり」となりましたが、創刊号によるとその名称は会員企業職員からの提案でした。



ひまわり - 花言葉：あなたは素晴らしい

英語名でサンフラワー、和名でも日向葵、迎陽花、日輪草、日車と大方がお日様にちなんだ名前のひまわり。フランス語でも「太陽について回る花」という意味があるそうです。暑い夏の時期にただそこに咲いているだけでとても元気な気持ちになります。

実は私は暑い夏の時期は苦手なのですが、ひまわりの花は「今日も一日がんばろう」と気持ちを奮い立たせてくれるのです。農機業界が明るく元気に発展するようにと願いをこめて応募しました。「ひまわり」には是非私たち女性にも、読みやすく新たな知識を取り入れられるよう期待しておりますので、よろしくお願いいたします。

（日農工会報誌創刊にあたって、本誌名を「ひまわり」と提案して下さった
三菱農機株式会社福島弘子様からの寄稿です。）

ひまわり 一日農工会報 Vol. 86 / 夏季号

令和8年(2026年)7月1日発行

発行人／ 石井伸治

発行所／一般社団法人 日本農業機械工業会

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号(機械振興会館)

TEL 03-3433-0415 / FAX 03-3433-1528

URL <http://www.jfmma.or.jp>

E-mail sunflower@jfmma.or.jp